



ニューズレター

# SDM NEWS



第5回プロジェクト・マネジャー能力強化研修を開催

2013年

12

月号

## 行事予定

2014年1月11日(土)  
慶應SDM 5周年記念イベント  
@日吉キャンパス  
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/11/12-090356.html>  
要事前登録 無料

2014年3月9日(日)~11日(火)  
イノベーション教育学会  
@日吉キャンパス  
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/10/09-083810.html>  
要事前登録 無料

※但しウィルカムレセプション、懇親会は有料

## 専任教員からのメッセージ

### 新年の挨拶



日吉キャンパスの銀杏の木が織りなす黄金アーケードも先日の暴風ですっかり枝が裸になってしまい、本格的な冬が到来していますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？

これを読んでいる頃には新年かもしれません。あけましておめでとうございます。2014年も慶應SDMをよろしく願っています。

2013年を振り返りますと、世界的に、日本的に、慶應SDM的にいろいろありました。

印象に残る世界的なニュースとして - スノーデン氏が暴露した米NSAのインターネット上の情報収集問題、米の連邦予算巡る野党対立で米政府機能の一部停止、サッチャー元英首相とマンデラ元南ア大統領の死去、フィリピンでの大型台風災害、中国共産党の習近平総書記が国家主席に選出されたことなど。日本に関しては - アベノミクスの開始、TPP交渉参加表明、維新・橋下共同代表の「慰安婦」発言、参院選での自民、公明両党の圧勝、東京2020五輪決定、特定秘密保護法案の決定などなど思いつきます。

多くの事象が起り、年が終わる前に多くの事象をもうすでに忘れていて、と驚いています。これら2013の「出来事」はすべて世界の社会経済システムのなかで複雑、多様になんらかの形で影響し合っていることを考え出すと、めまいも感じますが、わくわくもします。

2013年は慶應SDMにとっても、多くのイベントやニュースがある年になりました。上の写真はその一つ、私が携わって印象が強かった日本政治.comの鈴木邦和社長の授業内講演後の模様です。若くて、問題意識が強く、野心的で、頭脳明晰なアプローチで解決策を考え、行動に移す鈴木氏の活動に私も多くの受講者も感動していました。

来年もこのような意識で挑み、複雑・膨大なシステムを良い方向に改善できる研究努力をしていきたいと思えます。

SDM研究科准教授 ヒジノ ケン・ビクター・レオナード

## 最近のニュース

TOPIC

### 1 産総研「シンセシオロジー」に座談会記事掲載

産業技術総合研究所の論文誌シンセシオロジー 2013年11月号(第6巻第4号 pp. 246-254) に「システムデザイン・マネジメント学とシンセシオロジー - 現代社会の課題に挑み、研究成果を社会に活かす方法論 - 」という座談会記事が掲載された。慶應SDMからは、前野委員長、高野教授、西村教授、神武准教授が参加した。近い志を持った産学で今後も密に協力していくことを確認した。本記事は産総研のホームページで閲覧可能である。なお、協力の一環として、シンセシオロジー編集委員会には前野委員長、神武准教授が参加している。

産業総合研究所: [http://www.aist.go.jp/synthesiology/bk\\_no.html](http://www.aist.go.jp/synthesiology/bk_no.html)

掲載記事: [http://www.aist.go.jp/synthesiology/vol06\\_04/vol06\\_04\\_p246\\_p254.pdf](http://www.aist.go.jp/synthesiology/vol06_04/vol06_04_p246_p254.pdf)

慶應義塾大学イベントカレンダーをご利用ください。

[http://www.keio.ac.jp/ia/event/201312/201312\\_index.html](http://www.keio.ac.jp/ia/event/201312/201312_index.html)

通算61号 2013年12月発行

**SDM**  
System Design and Management

## TOPIC 2 第5回プロジェクト・マネジャー能力強化研修を開催



講義の様子



講演する当麻准教授

毎年秋に開催し今年第5回を迎えた恒例の「プロジェクト・マネジャー能力強化研修」が11月に開催された。今年は3日間の合宿を3週間のインターバルを置いて2回、計6日間にわたって実施され、これまで最多の24名の受講生が参加、熱気あふれる研修となった。

受講生たちの中には、海外勤務の多い商社マンから国内の販売営業マン、エンジンを開発するエンジニアや、新規事業を狙う製品開発者、情報システム開発のマネジャーなど、今年も様々な業界・職種から集まり、グループワークやネットワーキングを通して、良き異業種交流

の場ともなっていた。

本研修は、例年通り当麻哲哉准教授がコーディネーター、高橋良之講師がチーフトレーナーとして企画、実施され、慶應SDMオリジナルの「システム思考+デザイン思考」のワークショップに始まり、豊富な大型プロジェクト経験者を講師とした実践的教育まで、プロジェクト・マネジャーに必要な幅広いスキルを身につけるための密度の濃い講義・演習が行われた。研修仲間となった受講者たちは、最終日の修講式において修了証を笑顔で手にし、お互いの活躍を誓いあってそれぞれの職場へと帰って行った。



ランチミーティング

## TOPIC 3 研究科説明会を日吉キャンパス協生館で実施

2013年11月30日(土) 午後、日吉キャンパス協生館において研究科説明会を開催した。今回も30名を超える参加者があり、その三分の二が社会人の方々であった。

説明会は三部構成で実施され、第1部では研究科説明と教員紹介、第2部では、参加者を

3つのグループに分け、実際の授業や実験室の見学と、CDF教室での高精細大画面映像のデモンストレーションを順番に行った。そして最後の協生館6階教員室の廊下を使った第3部のポスターセッションでは、各ラボの研究を中心とした活動紹介があり、各ポスターの前では、参

加者らが教員や在学生と直接具体的な内容について議論したり相談したりする場となり、ご参加いただいた皆様に慶應SDMのありのままの姿をお見せることで、十分に満足いただける説明会となった。

## TOPIC 4 「新たな時代の新たな物語 —エコロジーからコスモロジー社会へ」



講演の様子

2013年11月29日(金)の午後7時から、世界連邦21世紀フォーラム代表でUMARIのコンセプターでもある木戸寛孝氏による公開講座が行われた。木戸氏は木戸孝允の直系6代目。新しい世界を構築するためには、近代から現代を支配する哲学的パラダイムを超えるような大きなパラダイムシフトが必要なのではないか、というスケールの大きい話であった。その

ヒントは、素粒子物理学による異次元の存在確認や、認知科学・脳神経科学によるトランスパーソナルな人間観の発達。エコロジーは衛星としての地球に生きる人類という近代・現代型の世界観であるのに対して、コスモロジーとは、時空と自我を超えた宇宙観という意味であった。



講演の様子

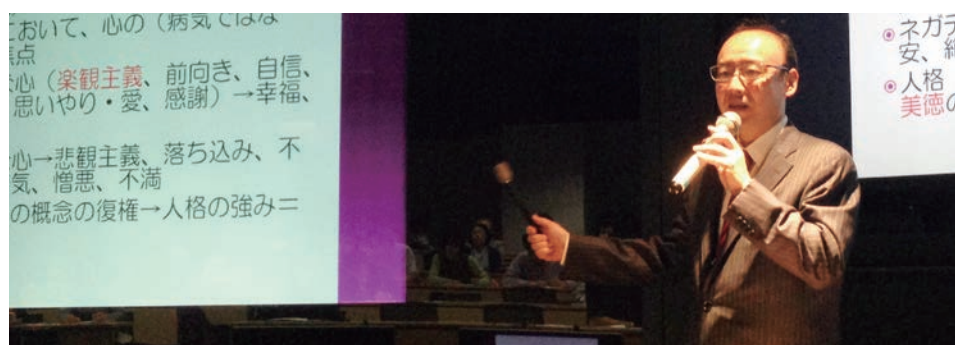
## TOPIC 5 幸せの白熱教室・白熱対談を開催



講演する前野教授

2013年12月8日(日)に、慶應SDMの前野隆司教授と小林正弥特別招聘教授による白熱対談シリーズの第4回が行われた。今回は、前野教授が初の白熱教室にチャレンジ。幸せとは何かについての熱い議論が交わされた。

東西哲学における幸福学の現状と、慶應SDMにおける幸福の多変量解析研究の類似点・相違点の議論や、参加者の幸せに対する意見交換など、クロストークも白熱し、充実した内容であった。



講演する小林教授

## ラボ・センター紹介

# 科学技術システムラボ

(Science and Technology System Laboratory)

担当教員: 西村秀和教授、日比谷孟俊 SDM研究所顧問

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/hibiya>

科学技術システムラボは、「科学研究や技術開発をシステムデザインすること」を目的に立ち上げられました。これまでの我が国の科学研究には、まずは手を動かしてみようという発想があり、このため大学の研究室は週7日、24時間体制になっています。これは、理工系学生が試練に立ち向かう際の訓練としては必ずしも悪くはないアプローチですが、効率は決して良くありません。科学研究にせよ技術開発にせよ、フロントローディングで準備をすることが重要です。「仮説を検証するために必要十分な証拠は何なのか、どうしたら、これらに最短距離でアプローチできるか」を、研究を始める前に先回りして考察すれば研究の効率や生産性は上がります。そのためには、研究の実施にあたって、システムズエンジニアリング的な発想が求められます。

現在、当該ラボの具体的なテーマとして、山岳地域の放射線量率測定があります。福島県吾妻連峰は慶應義塾の山荘もある山域ですが、東北地方太平洋沖地震の影響により福島第一原子力発電所で発生した事故以来、風評被害的に登山者数が減っています。自然界には、地質に依存した固有の自然放射線が存在します。しかしながら、現状では自然放射線の存在が無視され、かつ、線種と不確かさに対する考察の欠如した空間放射線量率のデータが独り歩きをし、これが地元の人々や登山者の不安を煽っています。当該ラボでは、理工学部山岳部と協力して、線種を特定した山岳地域の空間放射線量率を測定し、自然放射線と原子力事故由来の放射線とを区別し、これを公表してゆく計画を進めています。



福島県吾妻連峰



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館  
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: [sdm@info.keio.ac.jp](mailto:sdm@info.keio.ac.jp)

**SDM**  
System Design and Management